がんばれ熊建労

福岡県建設労働組合
〒815-0031
福岡市南区清水1丁目22-9
福建労本部(内)
TEL：092-511-4703
FAX：092-511-4752

熊建労地震支援　安否確認のため訪問行動
建物ごと横ずれのお宅も

７月３日、熊建労支援活動に福建労から19人　熊建労から８人の27人で、７班にわかれて、組合員訪問をおこないました。

各班11件～16件を訪問。午前中から雨の降る中での、組合員訪問でしたが、雨の影響で、ご本人に会える確立は良かったです。

熊建労の主婦の会の人と訪問行動をおこないましたが、移動中、その人が、今までに訪問したお宅では、２回目の地震で、このまま、死んでしまうのかなと思った人が多くいたと話していました。

訪問行動で被災者の要望を聞く

今回の訪問では、比較的被害が少ない所が多かったようでした。

しかし、ひどい所は、建物が、全体的に10センチ程度横にずれていたり、見た目からはわからないが、家の裏にまわると水路の所のブロック塀が崩れ、水路を完全にふさいでいたりしていました。組合の見舞金等の話や、全国から集まった支援物資を渡したりしました。

実家が、半壊だったと話す人や、ご自分の所は、建物が、ゆがみましたが、隣は、全壊だったと話すお宅。お隣は、そのお隣の家が倒れてきて、屋根が崩れ半壊になった。自分の所も、どうなるかわからなかった。ほんの少しの差だったと話されました。

高齢のご夫婦お二人のお宅では、「２回目の地震の時には、何が何かわからなく、怖かった。外から、若い人が外に出ろ！と叫んで教えてくれたので、急いで外に出て、娘が迎えに来るまで、裏の田んぼに逃げた。しかし田んぼも、地面が揺れて怖かった。水道管の破裂など、家にも被害はあり、今回の雨で、雨漏りも始まってしまった」と話されました。

最後に尋ねたお宅は、奥様が出てこられました。家は家財やクロスが破損しましたが、ご主人は、自宅は後回しで、自分の手がけた得意先をまわっています。しかし、疲れとストレスが、とてもひどいです。と話されました。

今後も、支援を続けていく事を確認し、本日の支援活動を終了しました。(県本部　北原書記)

復興に向けてガンバル仲間支援　来てくれてありがたい

新たにブルーシートを貼り直すボランティア

6月26日（日）に熊建労震災被災者の支援ボランティアに行ってきました。有野支部長、小堤副支部長、私、吉原の3人が参加し、被災した組合員宅の訪問とガレキ処理、ブルーシートの張替などを行いました。

ガレキ処理とブルーシート張りの現場は、福建労、熊建労の組合員が入り混じった合丁場でしたが、それぞれが、得意なこと、できることを率先して行い、事故もなく無事に完了しました。

作業前

⇒

作業後

人と人をつなげる組織の大切さ実感

組合員訪問は、熊建労の役員とグループをつくり訪問しました。必要な物資、支援の聞き取り、組合や公的機関から受けられる支援についての説明などを行いました。

訪問で印象的だったのは、組合員と組合の距離が非常に近いということです。京築支部との大きな違いは、班や分会といった組織ができており、日常的に集り、顔を合わせる機会があるため、今回のような災害が起こったときでも、組合員の安否確認がスムースにできていることです。

熊建労の役員さんは、多かれ少なかれ被害にあっている状態になりながら、毎週のように訪問活動に参加をしています。最後の感想でも「行って喜んでもらえた」「仲間に会えてよかった」「まだ困っている仲間はいるはず」といった事を話され、組合役員としての気概と責任感に頭の下がる思いでした。

これから息の長い支援活動ができるよう、今回行ったメンバーが、現地の状況をより多く、支部の仲間に知らせることが必要だと強く感じました。（京築　吉原書記長）

■支援活動（熊建労ニュースより）

熊本社協から依頼のブルーシートかけを熊本建労・福岡建労の仲間の計9 人（うち書記2 人）で行いました。（上写真参照）１Ｆ・２Ｆの瓦が割れていましたが、２Ｆの使える瓦を１Ｆで使うことにより、作業前と後で違いは一目瞭然です。ブルーシート張りでは、仕上げにビニールハウス用のビニールを取り付けることにより、雨漏れを極力させない知恵も使っています。

■被害状況(熊建労ニュースより)　７月７日　９時現在

支部名	城北	菊鹿	阿蘇	東部	西部	宇城	八代	計
ケガ		０	０	７	６	１０		２３
全壊		２	１	８４	１４	１６		１１７
半壊	１	４	３	１７９	２０	３９	２	２４８
瓦・一部	１４	２１	６	３１８	４０	１２７	９	５３５
地盤沈下 液状化			１ (川沿い)					１
土石流避難			４					４

■各組合の支援活動（熊建労ニュースより）

・神奈川県連(神奈川土建)及び京都建労の青年部から義援金

・７月全国の県連・組合からのボランティア参加予定

〇福岡県建設労働組合の仲間が、毎週日曜日15～20人がボランティアの参加予定

〇７月１０日は参議院選挙、７月３１日は熊建労執行委員会により、ボランティア活動を休みます。

〇７月１７日ボランティアの予定でしたが、被災ゴミ集積場の稼働日に合わせ１８日（月）祝日にボランティアを実施します。

全木協の応急仮設木造住宅建設　職人としての「誇り」感じる仕事

熊本地震からの復興に向け、全木協（全国木造建設事業協会）と全建総連が労働協約を結び、労働組合にのみ認められる「労働者供給事業」としておこなわれる、熊本での応急仮設木造住宅の建設工事に、今回嘉飯支部からは、桂川分会の木本幸介さんと、筑穂分会の平埜隆廣さんが大工職人として従事しました。木本さんの感想を紹介します。(嘉飯　月木書記長)

嘉飯支部　木本幸介さん

私たちは、６月６日～20日までの予定で、阿蘇市三久保地区の応急仮設木造住宅建設現場に従事しました。私は以前「阪神淡路大震災」の復興で、プレハブの仮設住宅建設に従事した経験から、ある程度の「覚悟」を持って臨みましたが、想像よりはるかにハードな現場でした。まずは、初日から４日連続しての棟上げ。持参した電動工具では作業に対応できず、一度自宅に取りに戻る。材料や金物が揃わず、仕事ができない。このような状況もあり、現場の段取りが組めず、工期は23日まで延長。結局１日の休みも取れず、しかも連日の残業で疲労困憊。そんな中、宿泊先のホテルの社長やおかみさん、従業員のみなさんには、心からのおもてなしをしてもらい、疲れた体を癒すことができ、心より感謝をしています。

大変きつい仕事ではありましたが、今回の震災の復興支援に「大工職人」として貢献できたことを何よりも誇りに感じます。今後、仲間に自分の経験を伝えることで、より多くの職人が後に続いてくれることを望みます。